

ふれあい

2012

12

No.309

牛久愛和総合病院 広報誌



病院と診療所の連携の重要性について

特任副院長 阿部 正宏



寒くなつてきました。これからは風邪やウイルス性胃腸炎やインフルエンザが流行する季節です。予防には、栄養のバランスを心がけ、体力をつけて免疫力を上げること、うがいや手洗いをまめに行うこと、もう何年も前から何回も耳にしたことと思います。それでもこれらが病気に罹つてしまふのは私たちが生き物ゆえしかたのないことです。さて、不幸にもこれらの病に罹つてしまつたら皆様はどうなさいますか？自宅で暖かくして安静をとる、薬局に出向いて薬剤師に相談して薬を購入する、近くでご開業されている医院を受診する、風邪は万病の元だから大きな病院を受診する、色々な選択があると思います。でもここで少しこそ考えて戴きたいのです。医療法では医療提供施設を以下の3つに定義しています。①病院・医師・歯科医師が、公衆・特定多数人の

ため医業・歯科医業を行う場所であつて、20人以上の患者を入院させるための施設を有するもの（1条の5第1項）②診療所・医師・歯科医師が、公衆・特定多数人のため医業・歯科医業を行う場所で、病院以外（1条の5第2項）③介護老人保健施設・介護保険法の規定による介護老人保健施設局。そして『医療は医療提供施設の機能に応じ効率的に提供されなければならぬ（1条の2第2項）。』と定められているのです。当院のような急性期型病院に科せられた役目は、救命救急と慢性疾患のうち診断と治療に際し、エコーやCTやMRIなどの高度な機材を必要とする疾患を診療することとで、最初にお示しした様な日常的疾患の場合、本来は診療所もしくは薬局で対応していただくことが望ましいのです。ではこれらの疾患を病院で診療し続けるとどんな不都合が生じるのでしよう。まず病院での診療を本当に必要とする患者さんの診療時間は減らしてしまうこと、次に医師の負担増加が望ましいのです。ではこれらの疾患を病院で診療し続けるとどん

患者さんの回診、検査や手術、患者さんご家族への説明、紹介状や診断書や保険請求などの書類を作成、月数回ですが休日診療や当直勤務時間が遅く休日も少なければ医師個人のみならず家庭への負担も増加し、結果として退職せざるを得なくなります。ご承知のように医師不足であることより（茨城県の人口あたりの医師数は全国で下から2番目です）医師の補充は簡単にはできませんから、残った医師の負担が増して、また新たな医師が退職するという悪循環を生じ、結果として地域の急性期医療が崩壊するということに繋がります。現在の当院の救急車受け入れ率は95%以上であり、地域救急医療に貢献していると自負しています。体調がすぐれないと誰でも不安になり、大きな病院の方が安心する先生を受診して戴き、救急医療を守つていただけるようにお願い致します。

自律神経失調症って?

総合診療科・神経内科医長 吉田佐好子

自律神経とは、心臓を動かしたり、汗をかいたり、自分でコントロールできない自動的に働く神経のこと。自律神経は、自動車でいうアクセルのようないく神経(交感神経)とブレーキのような神経(副交感神経)の二つに分類され、必要に応じて自動的に切り替えつつ働くようになっています。自律神経失調とは、不規則な生活や身体的・精神的因素によって、身体を働かせる自律神経のバランスが乱れています。症状は一人一人違いますが、よく見られるのは、微熱、頻脈、不眠、食欲低下、疲労感、記憶力の減退、めまい、息切れ、立ちくらみ、ふるえ、手足の冷え、便秘、下痢、排尿障害、陰萎、月経異常などです。内臓や器官の病変によるものではないので、何箇所も病院を回っています。



検査をしても「異常なし」、といわれることがほとんどです。

しかし、そうした症状がある前に出ている「仮面うつ病」もあるので、自律神経失調だから、と軽く考えず、気にならる時は精神科や心療内科を受診して適切な治療を行うことをお勧めします(注:当院心療内科では、現在新しい患者の診察受付は行っています)。

治療としては、自律訓練法(呼吸法や自己暗示)、内服治療(漢方薬や安定剤)、運動・理学療法(ヨガやカイロ

リングなどの心理療法があります。それまでの生活や仕事環境、自分の本当の気持ちなどを見直すきっかけになることもあります。

『第31回 生活習慣病教室』

テーマ
「糖尿病」

日時 1月23日(水)
14時30分から約一時間

講師 糖尿病・代謝内科
河邊聰子医師

会場 牛久愛和総合病院
B館2階 大ホール

参加費 無料



今回は、糖尿病についてのお話です。事前予約は不要です。興味がおありの方は、お誘いあわせの上お気軽にご参加下さい。

がん治療は大きく分類すると手術療法・放射線療法・薬物療法の3つに大別されます。薬物療法(化学療法)とは一般的には“抗がん剤治療”と呼ばれる治療を指します。

がん化学療法看護認定看護師の役割は、化学療法を行う患者さんとご家族が、治療を納得して、かつ安全に、そして少しでも苦痛なく治療を受けられるようお手伝いすることです。例えば、治療上の副作用による症状のケアと対処方法や、治療を行なながらの生活の中で困ったことについての相談やアドバイスなどを行っています。また、抗がん剤投与管理に携わる医療職の安全を守る役割も担っています。

これまで抗がん剤治療は入院して実施することが常識でしたが、安全で有効性の高い抗がん剤の開発、短時間で実施可能な治療法の開発、副作用対策の進

認定看護師リレー エッセイ がん化学療法

がん化学療法認定看護師 室町英子

がん治療は大きく分類すると歩により最近では外来での実施

が可能になり、社会生活や日常生活を送りながら治療を行う方が増えてきました。それに伴い、

外来通院治療センターを開設する病院が増えており、当院も今後通院治療センターを開設する予定です。開設までは手狭な環境で治療を受けて頂きご不便をおかけしますが、通院治療センターが開設すればさらに安全が

つ快適な環境で治療を受けて頂けると思いますので、ご期待下さい。





春秋園だより

春秋園では『心が動けば体も動く』をコンセプトに、利用者様の意欲を引き出そうと、さまざまな集団リハビリを取り組んでいます。

今回は、その中の一つ「ふれあいクラブ」の活動を紹介します。世代をこえた交流を通して、互いを思いやる気持ちや、役割を持つことの喜びを感じていただきたいと思い、マリアナーサリーの子どもたちと一緒にあります。



十月末の交流会では、利用者様から子どもたちに手作りのおもちゃをプレゼントしました。子どもたちの元気な声や、温もり、明るい笑顔に触れることで、利用者様も楽しい時間を過ごすことができました。（春秋園リハビリ一同）

■ 看護部		■ 看護部	■ 看護部	■ 看護部	■ 看護部
生理検査科	佐藤 綾子	秦野 有紀	渡辺 佳子	松浦 範子	山西 由紀子
臨床検査技師	佐藤 綾子	看護師 南 紘理香	歯科衛生士 渡辺 佳子	看護師 松浦 範子	介護福祉士 荒井 和美
ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。	わからぬ事がまだたくさんあります、少しずつ覚えていき、力をつけたいと思います。	私はかたづけるのが得意です。物が散乱しているとすぐ片付けてしまします。整理整頓万歳!!	小さな事でも地域の皆さんに、貢献できればと思います。趣味は部屋の模様替えです。	早くこの病院に慣れ皆さんと一緒に楽しく働けたらと思います。	多少の天然、マイペースではありますが、1歩1歩着実に進んでいきたいと思います。
■ 人事部	春秋園	11月1日付	11月16日付	11月1日付	11月1日付
温泉地に行きます。おすすめの温泉があつたら教えて下さい。	温泉が好きで月に1回は色んな温泉地に行きます。おすすめの温泉があつたら教えて下さい。	人見知りするので一見とつきにくいですが友達はたくさんいます。仕事は長く続けたいです。	人見知りするので一見とつきにくいですが友達はたくさんいます。仕事は長く続けたいです。	えらべ「冬至」。冬至には、運盛りといつて「ん」のつくもの、なまこ（南瓜）・にんじん・れんこん・ぎんなん・きんかん・うどん等を食べると「運」が呼び込めると言われています。	寒い時期に南瓜を食べるといふ「寒い」と言葉がでることが多くなり、手足もかじかみ冷えが辛い季節ですね。そんな冬におすすめの食材は、体を温めの「根菜」です。人参・蓮根・大根・ごぼうなどを積極的にとりいれてみましょう。

運気アップ！魔法のパンプキン

栄養センター 管理栄養士 後藤 和代

に変わります。ビタミンAは体の粘膜を強め、抵抗力をつける働きもあります。

寒い時期に南瓜を食べるとい

えば「冬至」。冬至には、運盛りといつて「ん」のつくもの、な

まこ（南瓜）・にんじん・れ

んこん・ぎんなん・きんかん・

うどん等を食べると「運」が呼

び込まれると言われています。

縁起をかつき、冬に不足がち

な栄養をとり「冬に体を温める

という養生の風習なのですね。

えらべ「冬至」。冬至には、運盛りといつて「ん」のつくもの、な

まこ（南瓜）・にんじん・れ

んこん・ぎんなん・きんかん・

うどん等を食べると「運」が呼

び込まれると言われています。

縁起をかつき、冬に不足がち

な栄養をとる「冬に体を温める

という養生の風習なのですね。

えらべ「冬至」。冬至には、運盛りといつて「ん」のつくもの、な

まこ（南瓜）・にんじん・れ

んこん・ぎんなん・きんかん・

うどん等を食べると「運」が呼

び込まれると言われています。

縁起をかつき、冬に不足がち

な栄養をとる「冬に体を温める

という養生の風習なのですね。

えらべ「冬至」。冬至には、運盛りといつて「ん」のつくもの、な

まこ（南瓜）・にんじん・れ

んこん・ぎんなん・きんかん・

うどん等を食べると「運」が呼

院内感染対策講習会

11/14

七五三参り

11/15

《出来事ピックアップ》

日時…平成24年11月14日
テーマ…飛沫感染予防策（インフルエンザ・ノロウイルス対策）

11月15日(木)、鹿嶋神社へ七五三のお参りに行きました。秋晴の中、年長組が小さい子の手を優しく引き、皆で神社へ向かいました。行く途中、どんぐりやからすうり等を見つけ、秋を感じることができました。

講師…ファイザー株式会社
学術支援部 姫野 真二氏

神社に着いてからは、手を清め順番に一人一人手を合わせ、今までの成長に感謝し、これらの健康をお祈りしました。お参りした後は、皆で千歳飴を少しずつなめて帰りました。（草間）

全職員を対象に季節的に流行するインフルエンザ・ノロウイルス対策について講習会を実施しました。インフルエンザの歴史やノロウイルスの歴史を知り、医療スタッフがすべき対策について学びました。

感染対策だけではないですが、油断のSYW（S..知っている！Y..やっている！W..分かってる！）は誰にでも言えることだと思います。

この機会にもう一度、SYWについて、医療スタッフ一人一人が考え、油断せず、常日頃より業務にあたり、標準予防策に取り組む姿勢が必要であることを再認識できた講習会でした。

（院内感染対策委員会 岩淵）

編集だより

『師走』今年も残り少なくなりました。何かと慌ただしいこのごろですが大掃除をして新たな気持ちで新年を迎えてですね。皆様良いお年をお迎え下さい。（C・I）



病院理念 我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床（一般434床 医療療養型55床）

施設

敷地 59,449.60 m² 駐車場 1032台



日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ <http://www.jojinkai.com>

《関連施設》

総合健診センター

Tel 029-873-4334

健康増進施設 スポーツリラックス

Tel 029-874-8791

介護老人保健施設 春秋園

Tel 029-870-3100

